

この「里山地区」には、薪を採り炭焼きをしていた雑木林や、100年程前に植えられたスギ林があり、尾根には馬が荷を引いた里道、谷あいにはため池や棚田の跡も残っています。

みちのく公園ではこの「里山地区」を、釜房湖という仙台市の水源を涵養するかけがえのない森であると捉え、その健全化のための樹林管理を行うとともに、人と自然とのかけがえのない里山の自然や文化を保全、継承し、今日に活かすことを目指しています。



8月25日（土）晴れ

夏の終わりに、里山工作体験！

今年は本当に暑い夏ですね！8月もうすぐ終わりますが、やっぱり残暑が厳しい日々です。

でも山に入れば、涼やかな風が吹いていきますよ！そこかしこに秋の気配です。

そろそろ夏休みも終わり。里山工作として、竹トンボづくりをしました。夏休みの宿題になりますかね？

夏の名残に、里山のかき氷を楽しみました。

みんなで飯盒炊飯！

里山のお昼ご飯は、薪を使っただけの飯盒炊飯です。この活動では何度もやっていますので、火おこしも、飯盒の水加減も手慣れたもの！



少し雨が降ってきたので、テント小屋の中で薪ストーブを囲んでの食事にしました。和気あいあいですね！



竹トンボ！



里山工作では、里山の竹を使って、竹とんぼづくりをしました。

竹トンボは、竹を切り出してプロペラ状にした翼部分と、硬い竹ひごを心棒として取り付けたもの。翼部分は、左右のバランスを配慮しながらナイフを使って、薄く削ります。これが難しいのです。



そして紙やすりで削って、心棒をさして完成。早速、竹とんぼを飛ばします。

軸を両方の手のひらを使ってぐるぐる回し、その反動で飛ばします。

何度も調整して、風に乗って空高く飛びました！